

春待つ心 ～ コロナのトンネルの中にある自分の心へ投げかけてみました ～

冬来りなば春遠からじ。冬に次は、必ず春がめぐってくる。自然の運航には寸分の狂いもない。冬極まって春をよぶ。これは天命である。

逆境に落ちたとき、そこから抜け出ようとあせる。しかし、これは先決ではない。どんな場合も、自らの心を倒してはならない。運命はふさがっても、心までふさいではならない。どこまでも、春待つ心を失わない。これは運命打開の第一歩である。

～ 文筆家 政治家 常岡 一郎 先生 の 言葉より ～

桜のつぼみもふくらみはじめ、早春の足音が聞こえる頃になりました。

校庭に注ぐ日差しにも春のぬくもりが少しずつ感じられ、体育館近くにある白梅の木がもうすぐ花を咲かせます。児童たちは、学年末の、今、学習、生活のまじめに一生懸命励んでいます。梅の花が凛と咲き、心地よい香りを周囲に漂わせてくれるように、児童も私たち大人も、新年度、よいスタートを切ることができるように、「今、ここ」を、真摯に、心を込め、過ごしていきたいものです。



全校朝会の話 紹介

2月1日(火)、全校朝会がありました。この日は、児童たちに、大きく分けて、二つの話をしました。一つ目は、新型コロナウイルス感染症対策についての話です。この2年間の辛抱についてねぎらうとともに、予防について、当たり前のことを当たり前のようにやっつけよう！と投げかけました。

もう一つは、1年間を締めくくり、また、来年度も楽しく、逞しく学校生活を送っていくために、金子みすゞさんの詩、『星とたんぼぼ』と『上の雪』を引用して、人間関係において『目に見えないものを見る』感性を育てることの大切さを伝えるとともに、真逆ではありますが、『自分の気持ちは言わないと伝わらない』、『相手の気持ちは聞かないと分からない』ということも力強く伝えました。

今年度の全校朝会は、コロナ禍のため、放送となり、児童と目と目を合わせて行うことができなかったことが残念ですが、『いじめが許されない理由』、『2平方メートルの世界＝たくましく生きる』、『100番目のサル＝最高級のあいさつを広める』など、これまで話したことが、児童たちたちの心にひとかけらでもよいので結晶として残っていることを願っています。最終回は、何を話そうかな…。

保護者と学校との連携システム「C o DMON」(コドモン)が導入されます

保護者と学校間の連絡手段をデジタル化するために全ての市立小中学校に保護者と学校との連絡システム(学校連絡システム)が導入されます。

保護者は私用のスマートフォンなどに連絡用アプリをインストールする等して利用できるようになります。

- ① **お知らせ配信機能** …これまで紙で配付されていたおたよりを、アプリ等を通して受け取ることができます。
- ② **欠席連絡機能** …これまでの電話や連絡帳などで行っていた欠席連絡を、アプリを通してすることができます。
- ③ **アンケート機能** …これまで紙で行っていた個人懇談の日程調整や各種アンケートなどにアプリを通して回答することができます。



◇この保護者と学校との連携システムの導入については、教育委員会からのお知らせを2月下旬に配付、また、保護者アプリ等の登録期間は、2月下旬～3月中旬と予定されています。